
基調講演 **これからの地域経済をデザインする**

東京大学大学院 助教授 竹内 佐和子 氏

GDPのマイナス成長など、日本の経済が低迷している。ここまで続くと単なる景気の問題ではなく、構造的な転換が必要だろう。国外に目を向けると、貿易黒字の減少が目立つ。だが、これは日本企業の海外投資や子会社経営などによるキャッシュフローがかかわっており、国際的に開かれた企業活動の結果だ。日本経済発展のあかしともいえる。

地域レベルでは、アジア各国の中小都市が国際的に台頭してきたのに対し、日本の地方都市は地位が低下しつつある。国内の地域間競争に目を奪われ、自らが国際マーケットであるという認識が薄かったからだ。これからはマーケットとしての魅力をどう付けるかが課題の一つになる。また、生産システムがグローバル化した今、作ることも運ぶことも重視すべきだろう。各企業はグローバル・ロジスティックス(物流を管理する技法)を意識した経営を考えねばなるまい。

だが、地域経済活性化の最大のポイントはやはり新産業の創出。まず「単に作る」から「サービス込みのものを作る」への転換を図らなければならない。地域のコアコンピタンス(核となる競争力)を高めるために策四次産業“的価値も重要になる。第四次産業とは、一次から三次まですべての活動を網羅する新しい産業のこと。この価値を付けるには、いち早くスタンダードを見つけ、調達先も決められる「目利き役」、つまり人材がかぎとなる。

地方先の新ビジネスは、戦略産業を絞り込むことで生まれる。宮山の場合は工業製品が強く、重工業の技術の蓄積もある。地理的に日本の真ん中にあり、輸送コスト上も有利といえる。富山に適した新産業はきっとある。後は、地域マーケティング、どうやって売り出すかだ。例えば専門職員を配置したり、データベースを整備したりすれば、外部の者がその地域の付加価値を判断しやすくなる。

21世紀の新事業のクラスター(集団)のうち、地方都市を再生しうる戦略産業を例示すると、ネットワーク関連、地場産業の復興、環境、流通、医療ビジネス、エネルギー管理型などがある。どの分野で道を切り開くか、地域の実状に即した対応が望まれる。いずれにせよ、21世紀のイノベーションは不可能だと思ふことをやることで始まるということ肝に銘じておいてほしい。

私は現在、水道ビジネスの研究を行っている。水道は使用の制御が重要なのでコンピューターと密接に関連しており、ろ過や浄化はハイテク技術。もちろん環境産業でもある。すべてを兼ね備えた新しいビジネスであり、民営化されればかなりの経済効果が期待できる。水道事業だけではなく、県や市の行政サービスを民営化することも1つの活性化策になる。

富山は住み良い豊かな自然があるのだから、さらに新事業が生まれれば人材は必ず集まってくる。このたび喜山と韓国・大邱市の産業支援機関同士が交流協定を結んだと聞く。これを機に、新事業が続々生まれ、モノも人も活発に動く、そんな魅力ある地域を創り出していきたい。